

特集



右が橘さん、左が木村さん

フォローし合いながら 互いの夢に向けて

★ 移動販売専門店「WA」代表
橘 朋弥さん 木村恭瓶さん

CHECK
一番人気の
自家製レモネード



COOL



橘 朋弥氏(写真右)山梨県出身。24歳。
木村恭瓶氏(写真左)下田市出身。23歳。
橘氏は高校卒業後、山梨県から上京。会社勤めをしているところを共同経営の話を持ち掛けられ、化粧品や健康サプリを扱う会社の経営に携わる。しかし、お客様本位ではない経営方針に嫌気がさし退職。縁もあり、下田のホテルにおいてサービス係として勤務することに。木村氏は地元の出身。サーフィンが大好きで、自己流だが、子供の頃から、料理する事も大好きであった事から、居酒屋のようなジャンルで自分の店を持つ夢を持っていたという。そんな2人は同じホテルのサービス係として同僚となり、意気投合する。
最初は、「かき氷でも売らしましょうよ」そんな

な木村氏の何気ない乗りから始まった話が、本格的な商売の話に…。最初から店を持つより、移動販売ならリスクも最小限に抑えられる。イベントの多い観光地ならではの発想だった。ホテルも退職した。
料理が得意分野の木村氏は、もつ煮、タコライス、カレーとナンセットなど提供できる食のバリエーションも豊富。橘氏はバーテンダーの学校に通っているだけに飲み物のアレンジが得意。地元高橋養蜂の蜂蜜を使った自家製レモネードは、多い時で1日200杯も売れる人気商品になった。
地元木村氏の人脈もあり、今年2月に開業してから5ヶ月で実に13ヶ所のイベントを回り、高校生カフェとのコラボも行った。橘氏は経営経験もあったので、経理全般などはお手の物、デザインも手掛ける。互

いの得意分野を活かし、フォローし合う。
今のところ1度もケンカをした事がないと話す。商売に対し、橘氏は「商売としてはスムーズに運んでいます。ただ、今のところ、若者向けのメニューだけです。年配者の方向けのメニューも出していきたいです」木村氏は「サーフィンで海外に行く事があるのですが、改めて、伊豆の海の素晴らしさを実感します。SNSなどを通じて、伊豆の魅力伝えていきたいです」と、一見、違う方向を見ているような印象を受けるが、両者とも「好きな仕事を楽しんでやっていきたい」という若者の感覚が垣間見える。夢もそれぞれ、しかし、今はその土台作りを一緒に作り上げていきたいようである。



・ 問い合わせ：橘 朋弥
・ ☎ 080-6678-6260
・ wa.dangomushi@gmail.com

特集

ヘアメイクスタジオに ベーカリー?

✂️ ヘアメイクスタジオキッズ&ベーカリーキッズ
齋藤 辰治さん 齋藤 未恵子さん

4



辰治さんが営む
ヘアースタジオ

ご主人の辰治さんは河津町のご出身。熱川で13年、現在の場所まで17年、美容師として30年以上お店を経営されてきた。妻の未恵子さんは、富士蒲原町のご出身。美容学校時代、共通の友達を通じて結婚。お店の手伝いもしながら3人の子育てをしてきた。そんな未恵子さんは4年前、「パンを焼こう!」と思い立つ。子供の頃、友達のお母さんが自家製のパンを出してくれた。「パンを焼けるお母さんって凄い!」そんな子供の頃の記憶がずっとあった。思い

ついたら一直線、猪突猛進型のご主人の辰治さんは、1年間、熱海にある学校に毎週1回通い、365日パンを焼き続けた。それまでは、パンどころか焼き菓子も作った事がなかったが、とにかく夢中になった。
そしてその頃、3番目のお子さんが独立。夫婦2人に。同じ場所でも同じ美容業に携わっていたらケンカになる。私の作ったパンを食べてもらいたい、私は私の居場所を作りたい。そんな妻の提案を夫の辰治さんは快く受け止め、入り口正面にパンの販売スペースを設けた。今では、パンの食感が評判となり、フ

アンの食感が評判となり、フアンの方もついた。「都会でも通用するよ」と言ってくれるお客さんもいる。ヘアメイクが済んだお客さんも帰りがけに笑顔で買求めてくれる。
パンのお店を開いて、一番良かった事は?の問いに「私は元々地元の人間ではありませんが、このパンのお陰で友達がたくさんできました。自分で出来るペースで作っていますので、儲けは余りありませんが、そんな繋がりが出来た事が一番の宝かな」と屈託のない笑顔で答える。
将来の夢は、パンの販売ス



パンの販売
スペースには
未恵子さん自慢の
パンが並ぶ

ヘアメイクスタジオキッズ& ベーカリーキッズ

・ ☎ 413-0302 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本249-1
・ ☎ 0557-23-4114
・ 定休日:日曜、月曜 営業時間 9:00~売り切れ次第
※ヘアースタジオ及びパンに関して予約受付ます。

「美味しいパンを毎日食べられていいですね」と辰治さんに聞いたところ、「私のために作ってほくせませんよ。余った時ぐらいです」と、すかさず未恵子さんが「仮面夫婦だもんね」と笑う。30年連れ添った夫婦の独特の間合いが微笑ましく感じられた。
「美味いパンを毎日食べられていいですね」と辰治さんに聞いたところ、「私のために作ってほくせませんよ。余った時ぐらいです」と、すかさず未恵子さんが「仮面夫婦だもんね」と笑う。30年連れ添った夫婦の独特の間合いが微笑ましく感じられた。
「美味いパンを毎日食べられていいですね」と辰治さんに聞いたところ、「私のために作ってほくせませんよ。余った時ぐらいです」と、すかさず未恵子さんが「仮面夫婦だもんね」と笑う。30年連れ添った夫婦の独特の間合いが微笑ましく感じられた。